



あ、自分にもできる（親近感）活動があるかもしれない（興味・関心）参加してみよう（行動）
そんな会員向け通信を目指しています。



市民菜園として再生した 実家荒廃農地

大上周作 寄稿（1469）

私の実家は元々広島市街地近郊の農家ですが、父が亡くなり、母は介護施設で暮らす今、明治時代築の家屋は空き家となって痛み、周辺にある田んぼは荒廃農地となりました。

退職を機に、この実家問題に真っ先に取組むことにしましたが、首都圏に基盤のある私には U ターンを選択肢はなく悩ましい難題でした。そうした中、高校の同級生にメールで相談したところ「市民菜園としての活用」案が浮かび、「広島市市民菜園」の開園に漕ぎつきました。広島市市民菜園は、農家が菜園としての区画整備を行った上で、広島市に農地を貸し出し、広島市内在住・在勤の人が菜園として利用できるようにする制度です。耕作放棄地は広島でも多く、市民菜園は市内に 130 か所あります。開園 4 年目を迎え 50 区画ある菜園は空きがない状態です。日頃の管理は高校の同級生が運営する NPO 法人広島エコ果樹菜園が行ってくれており、定期的に帰省する度に菜園利用者との新たな繋がりも楽しんでいきます。

◆ ◆ 私の推し街 連載 ◆ ◆



歴史、自然、文化が調和する 不死鳥の街 広島

原田隆司（1320）

私の故郷広島は、16 世紀末に毛利輝元が城を築き発展した城下町。江戸時代には西国の要地として栄え、明治以降は軍都として急速に成長しました。1945 年、原子爆弾の投下により市街地は一瞬で壊滅。その後の復興を経て「不死鳥の街」と呼ばれるほど力強く歩みを進めてきました。



広島には、訪れる人の心を揺さぶる見どころが多いです。原爆ドームや平和記念公園は平和への祈りを発信し続ける所。潮の満ち引きで姿を変える厳島神社の幻想的な景観や、瀬戸内海に島々が点在する多島美の穏やかな風景は、心を解きほぐしてくれます。食では、日本三大銘醸地のひとつ西条。多彩な蔵元の酒を味わいながら酒都ならではの奥深い文化を堪能できます。鉄板でじっくり焼き上げるお好み焼き、餌が豊富な牡蠣いかだの海底で育っ

た穴子がたっぷりのった穴子飯、七度洗えば鯛の味と称される夏が旬の小イワシの刺身など豊かです。歴史、自然、文化が調和する広島は、帰省の度に心が洗われる街です。



《イベントのお知らせ＆報告》

・実家の仕舞い方／活かし方アンケート実施のお知らせ

6月（地域デザイン通信第4号）に掲載の実家再生記事（池上眞平会員）には、同じ課題を持つ方々から多くの感想が寄せられ、今月号では大上周作会員の市民菜園としての活用案の寄稿がありました。地域デザイン総研内で調査プロジェクトが発足し、11月中に皆様へのアンケートを配信予定です。是非ご協力をお願いします。

・11月30日 10:00～16:00 相模原 SDGs EXPO@青山学院大学相模原キャンパス
相模の国倶楽部が出展、地域支援、教育、企業支援のPRと共に会員の拡大を図ります。

問い合わせ先：ご意見、感想、お問合せなど下記までお寄せください。お待ちしております

dfchiiki-tsushin@directforce.org

編集部：小島千代美・松瀬高志・宮武里美・岡田知之

実家の農地を市民菜園に転換するという活用方法が新鮮でした。これも地域貢献ですね。「利用者とのふれあいも楽しみ」と、故郷とつながり続ける副産物もあり素敵な取り組みです。（M2）

地域デザイン通信 バックナンバーはこちら <https://directforce.net/regional-design/>
ページの一番下までスクロールしてください。